

フェイスブックの友達の皆様

私の神奈川新聞の掲載 我が人生です 10回ずつまとめて読める サイトです一定の手続きしないと読めませんあくまでも著作権は神奈川新聞さんですのでご承知下さい。掲載回数は 63 回 3ヶ月の予定です。



神奈川新聞から
お知らせ

神奈川ゆかりの各界の著名人が、自らの道のりを振り返る連載「わが人生」は3月1日から、万葉倶楽部（くらぶ）代表取締役会長の高橋弘（たかはし・ひろし）さんが登場します。

高橋さんは1935年、静岡県生まれ、小田原市在住。岡県立三島南高校を卒業後、父が経営する酒販店勤務を経て、57年にアルプス写真を創業。60年に写真DPE事業の日本ジャンボを設立。97年には万葉倶楽部（本社・小田原市）を開業し、都市型温泉レジャー施設の先駆となります。温泉施設は現在、県内に「横浜みなとみらい 万葉倶楽部」など3カ所、県外にも6カ所と拡大しています。約3カ月の連載では、生まれ育った熱海の思い出、酒販店時代の苦心談、写真業界から温泉施設への大転換の逸話、経営理念に加え、都市開発事業への取り組みなども紹介します。ご期待ください。

わが人生3月1日から

高橋弘さん登場

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

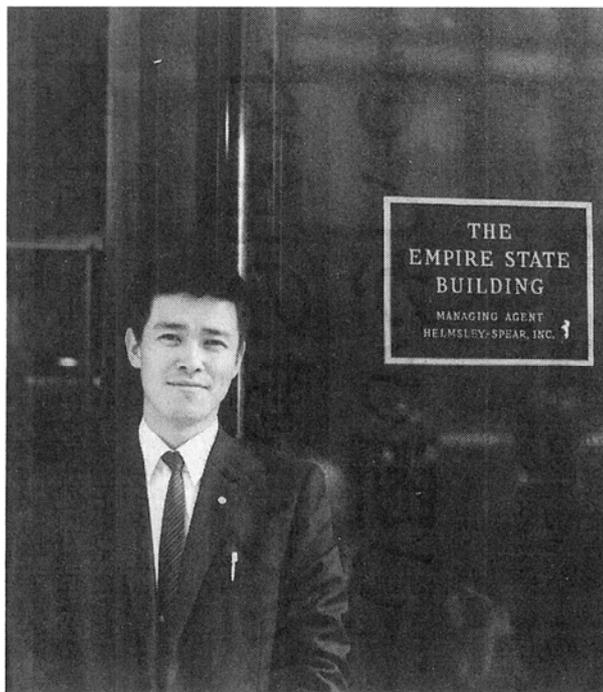
4月13日[木]

先勝

©神奈川新聞社 26831号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23

総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]



米国出張でエンパイアステートビルを訪れた筆者
1970年代後半、米・ニューヨーク市

わが人生

31



万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

「日本ジャンボ」創業時に米国製の大型焼き付け機を導入して以来、私は各地に次々新設する工場にも大型機械を設置しました。写真のプリントを機械で大量処理するのが、当社の特長であり強みでした。

しかし焼き付ける写真の100%が機械で処理できたわけではありません。現在のデジカメには自動露出機能や「蛍光灯モード」「夜景モード」などの撮影モード機能が付いていますが、しかし当時のフィルムカメラにはそうした機能がないため、お客さまから預かったフィルムの中には、逆光で人物の顔が真っ黒に

なった写真や、「色かぶり」といって全体が赤みがかったり緑色がかっていたりする写真が交ざっていることがありました。

色かぶりは、太陽光や蛍光灯といった光源の違いによって起きる現象です。人間の目は非常に優秀で、どんな光源の下でも本来の色で見えるよう調節するのですが、カメラはそれができません。すると、目で見たととき異なる色合いの写真になってしまいます。逆光

作業を行っていました。補正をしないと、お客さまが満足できる写真になりません。補正してもひどい場合はお渡しできず廃棄しますから、例えば24枚プリントしても23枚分しかプリント代を頂けないこととなります。

や色かぶりの写真は全体の5%ほどはありました。こうした写真はオペレーターが見つけ出し、補正をして焼き直していました。光量を調節するなどして、目で見たときの状態に、できるだけ近づけるのです。フィルムの時代は、この写真DPE店でもこの補正

です。プリント一枚から得られる利益は数十銭という薄利です。日本ジャンボは、大型機械で大量に処理することで小さな利益を積み上げる一方、小さな無駄を削りに削って少しずつ事業を発展させました。だから、たった1枚のプリントもおろそかにできません。

自動焼き付け機からどんどん出てくる写真から、補正の必要な写真をどれだけ見つけられるか。どこまでうまく補正できるか。それはオペレーター個人の能力にかかっています。そこで私は、各オペレーターの補正処理に関するデータをコンピューターで管

理・分析し、良い製品作りに反映させようと考えました。前回お話しした富士通の「FACOM23015」を1971年に導入したのは、事務処理の合理化のほか、この目的があったのです。しかし残念ながら、うまくいきませんでした。

その後最新鋭の機械を次々導入しますが、補正の段階で「人」に頼る部分はなくなりませんでした。フィルムや写真の集配の面で人の力は不可欠でした。後年、私どもの会社は写真DPE事業から、「万葉の湯」「万葉倶楽部」の温泉事業に大きく転換しました。両者は一見まったくの異業種ですが、人の力を活用しお客さまに喜んでいただくという点では、実は同じなのだと思っています。(たかはし・ひろし)

欠かせない「人」の力

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

4月14日〔金〕

友引

©神奈川新聞社 26832号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わかん生

32



来宮神社の御鳳輦で奉仕者として
神輿を担いだ42歳の筆者
—1977年7月、静岡県熱海市

万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

1977年、42歳の時、地元静岡の熱海市にある来宮神社の「御鳳輦」に「奉仕者」として参加しました。御鳳輦は、その年に厄年の42歳になる男性が神輿を担いで海岸まで練り歩き、海中に入って神社に戻ってくる神事です。同神社の例大祭の最終日、毎年7月16日に行われます。

面をかぶった猿田彦という神様です。猿田彦は、麦ごがしの粉末をバアツと高くまきながら進みます。千年以上前、来宮神社の神様が

さと神輿の重さ、そして一生に一度の役回りという高揚感で頭がぼうつとしてきます。街を抜け、熱海サンビーチへ。海水浴客や観光客が注視する中、海にゆつくり入り、胸の深さまで担いでいきました。

0年代は「日本ジャンボ」にとつて充実した時期になりました。まず80年、湯河原の総合現像所を建て直しました。和菓子屋さんの工場を利用した木造建物を取り壊し、鉄筋コンクリート造りの3階建てに建て替えたのです。新工場ではカラーフィルム現像1万本、カ

高崎市、88年に愛知県大口町... 本業を拡大する一方で、88年には新事業にも参入しました。米国製モーターホーム（大型キャンピングカー）の輸入販売と、レンタルビデオ店の開業です。レンタルビデオ店の第1号店は高崎市に開きました。店舗面積約330平方メートル、CD8千枚、ビデオ8千本という同市内最大級の大型店でした。

厄落として事業拡大

当日は猛暑の中、古式ゆかしい白装束を身に着け、同神社に赴きました。神輿を担ぐわれ奉仕者は数十人ですが、宮司さんや氏子総代などを含め総勢約500人の大行列です。

熱海の浜に現れた時、麦ごがしを供えたという故事にちなんでいいます。照りつける真夏の午後の日差しを浴びながら、「みょうねん、みょうねん」の掛け声とともに熱海の街を練り歩きました。装束は汗で張り付き、隣の奉仕者と体がぶつかり合います。暑

立派な大人になった反面、昔の友人に会いたい思いや郷愁にも駆られる年頃です。そんなときちょうどいいタイミングで与えられるのが御鳳輦なのです。この神事は私の人生に多くのものを授けてくれました。

さて御鳳輦で厄落としをしたおかげか、続く1980年代は「日本ジャンボ」にとつて充実した時期になりました。まず80年、湯河原の総合現像所を建て直しました。和菓子屋さんの工場を利用した木造建物を取り壊し、鉄筋コンクリート造りの3階建てに建て替えたのです。新工場ではカラーフィルム現像1万本、カ

同年には本拠地を湯河原町から熱海市に移します。湯河原町と川一本隔てた同市泉に社屋兼工場を新築し、イタリア製の最新鋭の自動処理システムを日本で初めて導入したのです。同時に、やはり日本で初めて現像所による印刷紙の自社製品化を始めました。

先頭は2頭の獅子舞。神輿を先導するのは、天狗の

先頭は2頭の獅子舞。神輿を先導するのは、天狗の

先頭は2頭の獅子舞。神輿を先導するのは、天狗の

先頭は2頭の獅子舞。神輿を先導するのは、天狗の

先頭は2頭の獅子舞。神輿を先導するのは、天狗の

(たかはし・ひろし)

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

4月17日〔月〕

大安 | 土用

©神奈川新聞社 26835号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕



筆者が考案し特許を取得した「フィルムピッカー」。パトローネ内に巻き込まれたフィルムを明るい場所で引き出せる

わが人生

33



万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋 弘

現在50歳以上の方なら、フィルムカメラ時代の35mmフィルムのことをよくご存じでしょう。パトローネという円筒形の金属容器にロール状に入っていて、先端部が少し出しています。ここを「ベロ」と呼びます。フィルムをカメラに装填するときは、ベロをカメラの所定の位置にセットします。ところが、何かの拍子にベロがパトローネの中に巻き込まれてしまうことがあります。こうなるとカメラに装填できず、未使用のまま捨てるしかありません。私は常々、巻き込まれたベロを引っ張り出す方法はないか考えていました。

駄になります。撮影済みの5コマだけ切り離して現像し、残り部分の先端をベロとして引き出せば残り部分で撮影できるのに、とも思っていました。

私はあれこれ試した末、ある道具を考案しました。パトローネの口に差し込み、2枚のシートでベロを

く、海外でも米国のコダック社や英国のイルフォード社からOEM（相手先ブランドによる生産・供給）製品として発売されました。未使用フィルムを引き出すために考案した道具ですが、市販してみると、撮影済みフィルムにも使われていると分かりました。

な写真愛好家の皆さんのお役に立っているようです。私はほかに特許を持っています。94年に開発した「ネガポジプリント」と「ネガポジファイル」です。ネガポジプリントは、現像したフィルムの全コマをそのままのサイズで1枚にベタ焼きしたものです。デジタル画像のインテックスプリントのようなものです。どのフィルムにどんな写真が写されているか分かるので、管理する際便利です。この一覧プリントとそれに対応するフィルムと一緒に収納できるのが、ネガポジファイルです。これらは、年間360本以上のフィルムを撮影していた私が写真の整理に閉口し、考案したものです。まさに「必要は発明の母」です。

（たかはし・ひろし）

「ピッカー」が大好評

挟んで引き出す道具です。暗室でなく明るい所でできるのも特徴の一つです。「フィルムピッカー」と命名して何度か改良を重ね、1987年に特許を取りました。専門業者さんに製作してもらい、グループ会社のエフェルから発売したところ、大変評判がよ

フィルムは最後のコマが撮影されると、カメラ内でベロまで自動的に全部巻き戻されます。これを現像する際は、パトローネ・オーブナーという栓抜きのような道具でパトローネのふたを開け、フィルムを取り出していました。ところがフィルムピッカーを使えばパ

な写真愛好家の皆さんの役に立っているようです。私はほかに特許を持っています。94年に開発した「ネガポジプリント」と「ネガポジファイル」です。ネガポジプリントは、現像したフィルムの全コマをそのままのサイズで1枚にベタ焼きしたものです。デジタル画像のインテックスプリントのようなものです。どのフィルムにどんな写真が写されているか分かるので、管理する際便利です。この一覧プリントとそれに対応するフィルムと一緒に収納できるのが、ネガポジファイルです。これらは、年間360本以上のフィルムを撮影していた私が写真の整理に閉口し、考案したものです。まさに「必要は発明の母」です。

（たかはし・ひろし）

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

4月18日[火]

赤口

©神奈川新聞社 26836号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111[1カ月3189円・1部120円]



公道と工場との間の川に自前で架けた橋「たかはし」の前に立つ筆者。渡った先の工場は静岡県熱海市で、公道側は湯河原町になる

2017年1月、湯河原町

わが人生

34



万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

1964年に設けた湯河原の総合現像所は、その後80年に建て替えたものの、80年代後半になるとさすがに手狭になってきました。広い場所に移転しようと思

いましたが、当時はパブル景気の真つ盛り。地価は一気に上昇しており、工場用の広い土地にはなかなか手が出せません。

そんなとき、湯河原町と静岡県熱海市の境を流れている千歳川の河畔に、ちょうどいい土地があることに気がきました。湯河原側にある公道から千歳川を隔てた熱海市側にあり、後ろはすぐ山です。何の用途地域にも指定されていないの

で、工場を建てることも可能でした。

「でも、ぼつんと孤立している土地だから、アクセスが不便だなあ…」

熱海に新社屋を建設

行くには、いったん上流

にさかのぼって橋を渡り、対岸の農道を戻ってこなければなりません。ただし不便な分、価格はお手頃です。何か手はないかと考えるうち、ひらめきました。

「自分で橋を架ければいいじゃないか！」

千歳川は川幅は広くあり

ませんが、大雨などの際に

大量の流水が予想されることから、橋の下に橋脚や橋桁などの構造物を付けられない造りにすることが定められていました。そうした造りで、トラックも通行できる丈夫な橋を架けるのはお金がかかりましたが、土地代が安いので、差し引きすれ

△を導入しました。

このシステムは、連続処理をする点が画期的でした。従来はフィルムを現像する機械、プリントする機械、仕上げる機械、と工程ごとに別々の機械が処理をしていたのを、連続で自動処理してくれるのです。要所要所でオペレーターが目

当社の従業員1人1時間当たりの生産枚数は業界平均の3倍になりました。

人手が大幅に削減できるので、導入すると労働問題に発展しかねないと言われていたシステムでした。日本で導入したのは「日本ジャンボ」が初めてです。きっかけは、ドイツのアグファ・ゲバルト社からの情報提供でした。写真用品の製造・販売を行う同社とは以前から取引があり、その日本法人を通してこんな

打診があったのです。「ミスター・タカハシ、連続処理できる最新鋭の機械が欧州で開発された。興味はあるか」。私は「もちろんだ、ありがとう」と即答。同社の担当者と共に現地に視察に飛び、その場で商談を成立させたのでした。

(たかはし・ひろし)

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

4月19日〔水〕

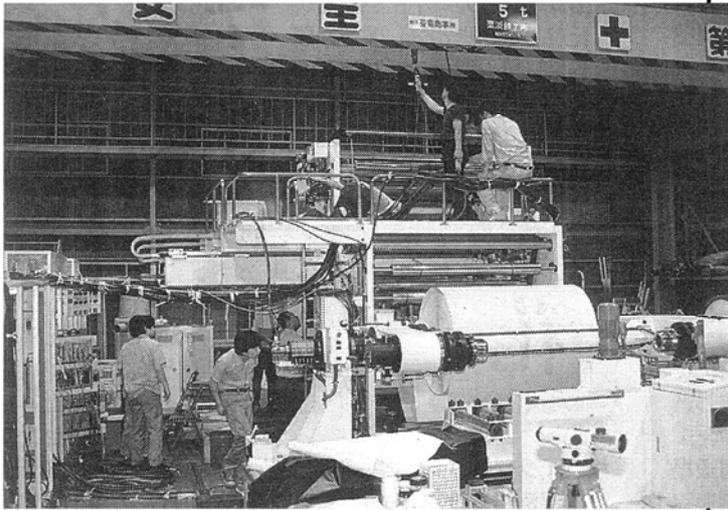
先勝

©神奈川新聞社 26837号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わが人生

35



ペーパーリッター設置に先立ち、受講した組み立て講習の様子。これと同型の機械を熱海市泉の新工場に設置した
—1988年、京都府

万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋 弘

大手系列に属さない「日本ジャンボ」は、海外企業と直接取引することで、世界の最新技術を独自に取り入れてきました。

特にドイツのアグファ・ゲバルト社とは、同社のフィルム「ゲバカラー」を早くから扱ったり、1973年に同社指定現像所の経営を譲り受けたり（その後売却）と、親しい関係が続けてきました。同社は当時、世界第3位の写真フィルムメーカーで、80、90年代にはドイツの化学薬品メーカーであるバイエルの子会社でした。88年にイタリア製「マキシラボシステム」を導入したのは、同社の情報

提供が発端だったことは前回お話しした通りです。

当社が大手メーカーと渡り合うため選んだ手段は「薄利多売」でした。これ

日本ジャンボは60年の創業以来、三菱製紙から印画紙を仕入れてきました。同社のおかげで米国製大型機械を導入できた恩義があったからです。

しかし80年代に入ると、私は国内の印画紙の価格が、国際価格より4倍以上も高いことに疑問を感じる

う。85年、アグファ社製に切り替えました。

そして数年後、私は印画紙を「原反」状態で仕入れることを思いつきました。

印画紙は、もとは重さが1ト以上ある巨大なロール紙で、この状態を原反といいます。現像所で使うのは、原反の幅を17、18本に裁断

印画紙を自社で裁断

に、この機械を設置しました。DPE会社が自前で原反印画紙を裁断加工するのは日本初でした。これにより、印画紙コストは国内価格の約半額になりました。工場の3階に設置したマキシラボシステムと合わせると、非常に大きな投資でしたが、その分大幅なコストダウンができ、大手系列のプリント代が1枚約30円の時代に、半額の15円を実現できました。

に欠かせないのが機械化、コンピューター導入、後述するさまざまな「小さな工夫」、そして海外企業との直接取引だったのです。

さて、低価格実現のための合理化の中で行き着いたのが、印画紙のコスト問題でした。印画紙は写真をプリントする専用の紙です。

ようになりまし。三菱製紙だけでなく、他の感材メーカーも同様の値段です。かつてのカラーフィルム同様、大手系列による寡占が行われていたのです。

「考えてみればうちは独立系なんだから、系列に縛られる必要はない。海外メーカーから直接仕入れよ

し。小さなロール紙に加工したものです。原反を買って自前で裁断すれば、印画紙のコストはもっと安くなると気付いたのです。

アグファ社から「ペーパーリッター」という大型の裁断機械を買い入れました。そして88年、静岡県熱海市に新設した工場の1階

89年当時のDPE業界のシェアは富士フイルムが50%強、小西六が15%、コダックが10%でした。大手3社で8割近くを占める中、日本ジャンボは3%と健闘。その後も合理化による低価格を進め、徐々にシェアを拡大。97年には4・7%になりました。（たかはし・ひろし）

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

4月20日[木]

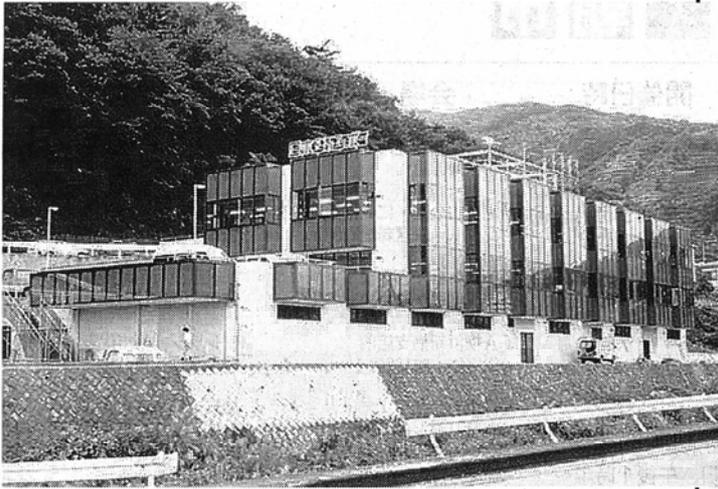
友引 | 穀雨

©神奈川新聞社 26838号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]

わが人生

36



全面ガラス張りというモダンなデザインの新社屋兼新工場。川と山に挟まれた立地
—1988年、静岡県熱海市泉

万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

どこにも負けない低価格を実現するため、「日本ジヤンポー」はさまざまな合理化を行いました。その一つの方向は大規模な設備投資、つまり生産工場の集約と最新型機械の導入です。

もう一つの方向は、個人レベルですぐに実行できる「小さな工夫」です。

例えば集配です。当社は、クリーニング店や文具店など異業種の店に取次店になつてもらつて窓口を増やし、1990年代には全国に5万軒以上になつていました。取次店が増えた分、店を回つて撮影済みのフィルムを回収し、仕上がった写真を配る仕事も増えま

す。そこで私は、週末しか自家用車を使わない家庭が多いことに着目し、自家用車と平日の4〜5時間を活用できる主婦の皆さんにパ

ートタイムの集配員になつてもらいました。

集配ルートも工夫しました。できるだけ短時間で多くの取次店を回ることで、くる順路を、会社が組み立てました。その大原則は「左回り」です。なぜなら交差点で右折しようとするとき、対向車がなくなるまで右折

ラインで待たなければならぬからです。集配ルートに交差点の右折が10カ所あったら、待ち時間、すなわち「業務が停滞している時間」が、合計10分以上になってしまいます。1人10分でも、それが500人、千人となれば生産性に大きな影響を与えます。

小さな工夫で合理化

リントのスピード仕上げを行う、ミニラボと呼ばれる小規模DPE店が登場しました。速さが売りの店です。しかし日本ジヤンポーは速さにこだわらず、安さを追求しました。だから集配は1日1回で済み、工場に集めて大量に一括処理もできるのです。速さを捨てたか

各取次店に配る仕上がり写真や請求書は、取次店や集配ルートのコード化により、集配する順序通りに機械から出てきます。集配員は、自分の担当ルートの写真や請求書を受け取った

ら、それを上から順に配ってあげたいのです。80年代後半は、現像・ブ

なので、毎日だと月に24時間になり、3日間欠勤するのと同じです。全国80カ所の営業所を合計すると、大変な無駄です。

そこでこちらからは行かず、取引銀行の担当者が2〜3日に一度集金に来るときに、用事をまとめて頼むようにしました。「今度の集金のとき、振り込みと〇〇円分の両替をお願いします」という具合です。それには事前に依頼内容を連絡し、通帳や印鑑を用意しておくことが必要です。連絡と準備さえしておけば、私的な入金金もやってもらえました。会社に来ない銀行の場合は、行く頻度を週1度に減らしました。

こうして時間の無駄を減らし、個人の生産性を少しずつ上げていきました。(たかはし・ひろし)

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

4月21日〔金〕

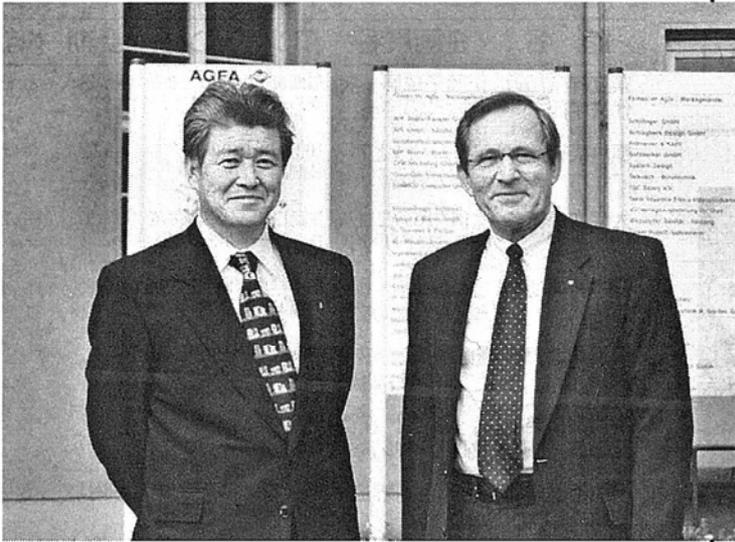
先負

©神奈川新聞社 26839号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わが人生

37



ドイツのアグファ・ゲバルト社のストーク社長(右)と写真に納まる筆者。同社長は筆者の四男・高橋理万葉倶楽部社長の仲人も務めた。=1999年、ドイツ

万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

無駄を省くための「小さな工夫」は、「左回りルー」や「銀行に行かない」以外にもあります。例えば「日本ジャンボ」の時代も現在の「万葉倶楽部」でも、当社の各応接室の卓上にはこんな「注意書き」が置かれています。お取引先の皆様にお願ひ

(商談:5分以内)

1・貴社は当社に何をどの様な条件でご提案されるのですか。
2・その情報は当社にとって価値のある情報ですか。
3・その他、ユニークな提案はありますか。
失礼な物言いだと思われるかもしれませんが、しかし

無駄を省くための「小さな工夫」は、「左回りルー」や「銀行に行かない」以外にもあります。例えば「日本ジャンボ」の時代も現在の「万葉倶楽部」でも、当社の各応接室の卓上にはこんな「注意書き」が置かれています。お取引先の皆様にお願ひ

商談時間5分以内で

商談は短時間で効率よく行うのが一番です。5分と区切れれば、単刀直入に本題に入れます。あらかじめ条件や情報を準備して臨みます

個人などところでいえば、私は社長時代、頻繁に海外出張に行きましたが、航空券は常にエコノミークラスでした。ビジネスクラスやファーストクラスの1人分で、3人分は買えるからです。そうすれば、私のほか社員2人に海外視察を経験させられます。

つといいと私は思います。ところで、部下と海外出張に行くとき「社長と1人で同じ部屋に泊まるのはちょっと」と言われるので、それぞれに部屋を取りました。確かに、誰かと一緒に旅行でも、寝るときは1人部屋が気楽です。この経験が後年、1人1室利用の温泉旅館というアイデアにつながりました。ちなみに「万葉倶楽部」の「万葉の湯」のトイレは入り口の床にスリッパが置かれ、スリッパの形が描かれています。形が描かれていると、自然とそれに合わせてスリッパを脱いでくれるからです。これは従業員の手間を減らすためというより、お客さまに気持ちよくトイレを利用していただくための「小さな工夫」です。(たかはし・ひろし)

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年〔平成29年〕

4月24日〔月〕

赤口

©神奈川新聞社 26842号
〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111〔1カ月3189円・1部120円〕

わが人生

38



レンタルビデオ業に進出した「ビデオレンタルジャンボ」第1号店。高崎市内で最大級の大型店となった。＝1988年、群馬県

万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

1988年の年頭のことです。取引銀行関連の投資会社から、「高橋社長はことし53歳でしょう。そろそろ事業の承継を考えては」と言われました。

まるで考えていなかった話でした。相手はこう続けました。「事業を承継するには二つのやり方があります。株式を未公開のままにするか、公開するかどうか。株式の公開…、これも考えたことありませんでした。しかし同年秋にも別の投資会社に「そろそろ株式を公開してはどうですか」と言われ、その会社が主催するセミナーを受講しました。「日本ジャンボ」は

同年9月、神奈川との県境に近い熱海市泉に新社屋兼新工場を建てましたが、その少し後のことでした。セミナーのタイトルは

「挑戦と創造、公開を果たして」。講師は30歳代のベンチャー企業経営者でした。彼の会社の経常利益が2億6千万円だと聞き、「このくらいの規模の会社でも公開できるんだ…」と、目からうろこが落ちる思いでした。後で調べたら、店頭公開企業のうち一番目に経

常利益の少ない会社でした。ちなみに88年の日本ジャンボグループの経常利益は約2億円。講師の経営するベンチャー企業と、そう変わりません。株式公開について関心の薄かった私ですが、セミナーで聞いた彼の体験談は大変興味深く、とりわけ次の

「せひやりましょう」と口をそろえました。そうだったのか、うちの連中は上場を望んでいるのか…。社員たちの気持ちを初めて知った私は、覚悟を決めました。公開に向けて具体的な準備に取り掛かったのです。公開の話を以前私に持ち

株式公開の準備開始

「せひやりましょう」と口をそろえました。そうだったのか、うちの連中は上場を望んでいるのか…。社員たちの気持ちを初めて知った私は、覚悟を決めました。公開に向けて具体的な準備に取り掛かったのです。公開の話を以前私に持ち

かけてきた投資会社が、資本政策を持って持ってきたが、引き換えに株を持たせてほしいと言われました。「なるほど、こういうことなんだな」。セミナーでの忠告を思い出し、きっぱりと断りました。

88年12月、日本最大級の会計事務所である監査法人「トーマツ」に予備調査を依頼し、翌89年1月に結果報告を受けました。トーマツから「株式公開には監査法人、証券会社、信託銀行の三者の協力が不可欠です」と教えてもらい、準大手の証券会社に協力を依頼しました。

こうして公開準備は着々と進んでいきました。ところがそんな中、事件が起きました。自称・右翼活動家による恐喝でした。（たかはし・ひろし）

神奈川新聞

THE KANAGAWA

2017年[平成29年]

4月26日[水]

仏滅

©神奈川新聞社 26844号

〒231-8445 横浜市中区太田町2-23
総合受付 045-227-1111 [1カ月3189円・1部120円]

わかん生

40



北陸地方の拠点として新設した「日本ジャンボ」の北陸現像所＝1990年、金沢市

万葉倶楽部 代表取締役会長

高橋弘

1990年ごろ、株式公開の準備を進める「日本ジャンボ」に、未公開株を巡り反社会的な要求が相次ぐなどしたため、私は公開をよめる決意をしました。

準備段階でお世話になった機関や会社におわびに回り、最後にある証券会社に行ったときのことです。初期から丁寧にサポートしてくれた会社でした。

「実は、株式公開はやることにしたんです」とすると、「えっ、残念ですね。従業員皆さんにはお伝えしたのですか。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

突然の訪問だったので、とりあえず担当課長が応対してくれました。「高橋社長、本日は常務に面会希望とのことですが、どのような用件ですか」

「課長、この言葉に、私ははっとしました。思えば公開を決めたのも社員が「せ

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

も素直な気持ちになりました。実直そうな雰囲気、私も素直な気持ちになりました。

「課長、この言葉に、私ははっとしました。思えば公開を決めたのも社員が「せ

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この言葉に、私ははっとしました。思えば公開を決めたのも社員が「せ

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「国税庁通達」の衝撃

中止の話は、社内ではまだ誰にも伝えていませんでした。私一人で決断し、一人で進めていたのです。そうなんです、皆さん、きつとがっかりなされるでしょうね」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

「課長、この訪問はなかったことにしてください。今はひとりで決断し、一人で進めていたのです。」

(たかはし・ひろし)